

北山 六智夫（きたやま・むちお）

1、プロフィール

詩人。旧制中学在学中から詩作。同人雑誌「ふるさと」に参加、「星座図」発行。地方の民主化運動、文化活動を推進。黒石文学会、青森文学会を結成。共同詩集「聖天」がある。

<生没>

1908(明治 41)年 12 月 24 日 ~ 1981(昭和 56)年 11 月 1 日

<代表作>

自選歌集『山暮れ』

長男冬琉との共同詩集『聖天』

<青森との関わり>

南津軽郡浅瀬石村に生まれる。同人誌「星座図」「地下室」発行に関わる。黒石文学会を発足させ、活動の牽引力となる。

2、作家解説

黒石の旧家の六男として生まれる。昭和2年秋田県立大館中学校卒業。在学中から同人雑誌「水藻」を発行、主に詩を書く。黒石の里村芳月主宰「ふるさと」に詩を発表。対馬幹夫と「星座図」を発行、県外から野村吉哉、真壁仁、海老名礼太らが寄稿。

3年上京、日本大学芸術科に入学。社会科学研究グループ「三L会」に所属。社会に深く目が向く。翌年中途退学、帰郷。プロレタリア詩歌誌「手」を発行。10年黒石短歌会、黒石詩話会を結成。黒石を中心に文学活動を行なう。「青原」を発行、青年対象の文化活動を推進。一時期中断していた詩作を復活、生涯通して詩作する。終戦後その活動力は衰えることなく、黒石文学会を発足、「桃」発行。現在も続いている同会の初期活動の牽引力となった。秋田雨雀、鳴海要吉を愛し、要吉の『土にかえれ』の再版を自費出版。また青森文学会に「鳴海要吉讃歌」

50 枚を発表。47 年夭逝した長男冬琉との共同詩集『聖天』刊行。県詩人連盟理事を務めた。

3、資料紹介

○『聖天』

図書

1972(昭和 47)年 12 月

青森文学会、黒石文学会で刊行。弘前高校3年に事故死した長男冬琉(とおる)との共同詩集。装丁と序文を棟方寅雄、六智夫の詩 25 編、冬琉の詩 14 編、童話 1 編、追悼記、六智夫略歴。聖天後記を川崎むつを、刊行経緯を吉田喜志雄が書き、117 頁からなる。(寄贈者)北山春樹(六智夫の三男)